



水産情報速報版

2025. 12. 12. №1463
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行=指導部漁業振興課
<http://www.sogyoren.jf-net.ne.jp/>

1. 内浦漁協青壮年部が県知事賞を受賞！ — 県青年・女性漁業者交流大会 —

静岡県と本会は、去る 11 月 14 日に焼津市の水産・海洋技術研究所において第 31 回静岡県青年・女性漁業者交流大会を開催しました。

大会は、県経済産業部水産・海洋局 吉野局長による主催者あいさつ、審査委員紹介、来賓紹介の後、以下の 2 団体より発表が行われました。

＜実績活動発表＞

1. 『思考型漁業体験で切り拓く水産業の未来

～ 僕たちの新たなる挑戦 ～』

発表者 内浦漁業協同組合 青壮年部 日吉 勝也さん

2. 『藻場の回復を目指して

～ 一本釣り漁師の願い ～』

発表者 伊豆漁業協同組合 須崎青年部 伊藤 壮章さん

発表終了後、審査委員 4 名（審査委員長：高木康次県水産・海洋技術研究所長）により厳正な審査を実施した結果、内浦漁協青壮年部が県知事賞を受賞し、伊豆漁協須崎青年部が県漁連会長賞を受賞しました。

県知事賞を受賞した内浦漁協青壮年部の発表内容は、来年 3 月に東京で開催予定の全国大会に県代表として推薦されました。

2. 第 44 回全国豊かな海づくり大会開催！ — 天皇・皇后両陛下がご臨席 —

第 44 回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～が、天皇・皇后両陛下のご臨席のもと 11 月 9 日に三重県において開催されました。大会テーマは「受け継ごう 命あふれる 清い海」。

式典行事は志摩市の「阿児アリーナ」で開催され、天皇陛下はあいさつの中で「豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を適切に保護・管理し、次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命」と述べられました。

大会会長を務めた額賀福志郎衆院議長は「豊かな海や河川を次世代へと引き継ぎ、水産業

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

を未来に希望をもって繋いでいくことを目指して、今後ともご尽力いただきたい」とあいさつしました。

大会は功績団体表彰等が行われたのち、大会推進委員会の坂本雅信会長（JF 全漁連会長）が大会決議を朗読し、満場の拍手をもって採択されました。

式典後に南伊勢町宿田曾漁港で行われた放流行事では、漁船がパレードを行い、最後には両陛下と一部参加者により、豊かな海を願いイセエビの稚エビとマダイの稚魚の放流を行い、大きな拍手に包まれながら大会の幕を閉じました。

次回大会は、2026 年に大阪府で開催予定となっています。

3. 漁協中堅職員研修会を開催！ — 10 団体から 21 名が参加 —

本会協同組合課は、11 月 19 日に県水産会館 5 階会議室において「2025 年度漁協中堅職員研修会」を 10 団体・21 名の参加者のもと開催しました。

本研修会はマネジメント力向上～チームの成果を高めるコミュニケーションと問題解決～と題し、グループでのディスカッションをメインに「組織の現状をふりかえる」、「問題解決とリーダーの意思決定」、「部下指導と関係性構築」の 3 つについて研修を行いました。

職場の問題点を洗い出し、「ここにテコ入れをすれば解決につながる」というポイント整理を行いながらの意見交換は時間が足りないほどでした。問題点を構造化し、深堀りを進めることで今回の目的は果たせ、充実した研修会となりました。

4. 産業フェアしずおか出展 — 沼津産養殖マダイの試食 PR 活動 —

静岡県おさかな普及協議会では県・キユーピー㈱・本協議会とで行う「やさかなプロジェクト」活動の一環として、11 月 29～30 日にツインメッセ静岡で開催された「産業フェアしずおか 2025」のしづまえベース内に出展し、やさかなプロジェクト及び沼津産養殖マダイの PR 活動を行いました。

キユーピー㈱提供の試供品配布を行いながら、やさかなプロジェクトの知名度、沼津での養殖業の知名度アンケートを行い、さらに海面養殖業高度化推進事業を活用し、沼津地区の漁協組合員により生産された「沼津産養殖マダイ」のフィーレ約 40kg を野菜とドレッシングで簡単調理をした「マダイカルパッチョ」の試食 PR 活動を行いました。2 日間で約 1,400 食の試食を配布し、試食以外にも釣りゲームで来場者に楽しんでいただく企画も用意し、多くの来場者と会話を交えての PR 活動を行いました。

自身のマダイはクセもなく、食べやすいと来場者からも好評で、今後のやさかなプロジェクトの活動でも魚食普及の推進を図っていきます。

本紙は、県内の漁業振興を目的に（公財）静岡県漁業振興基金の協力により発行する定期刊行物です。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう